八基連だより

２月号　　第２５８号

発行日　平成２５年２月１日（金）
発行所　八王子囲碁連盟
住　所　八王子市台町３－２２－１－１２１
ＴＥＬ　（０４２）６２５－９５２９
発行人・三上　靖宏
編集者・山縣　文雄

片倉城跡公園　本丸址（片倉町）

http://www.shiminkatudo-hachioji.jp/gorakuren/

八王子囲碁連盟の目的

八基連は、八王子市内に居住する囲碁愛好者が、囲碁を通じて親睦を図り、かつ、健康を維持できるよう機会を提供し、福祉の増進に寄与するとともに、棋力の向上を図ることを目的とする。

負けるが勝ち

長房囲碁会　　池口隆久

どういうわけか、私は、負けるのが得意である。特に大会というと負けが込む。はやばやと２敗して、弁当食べて、「はい、さようなら」が多い。勝とうとするあまり負けるのかなとも思える。石を取られると、「もう駄目」と悲観してずるずると負ける。相手の大石を取って先行し、もう勝ちと思い込んでしまうのか、いつのまにか緩みにゆるんで、いやな気分で並べてみると数目の負け。どうも負けるのが得意なのである。

もっと勉強しなければと、囲碁の本を読み、定石を並べてみる。いくつか覚えると、どうしてもそれにこだわり、対局中にそれを使ってみたくなる。それにこだわるあまり、相手が定石と違う受け手を打つと、もう混乱してダメになる。武蔵も言うよう「一か所に心を止むれば、おのれの動きは止まり、負くるなり」と。

中盤で優勢と思っていても、相手が勝負手を打ちこんでくると、むっとするのである。懲らしめてやろうとばかりにいじめにかかる。相手が半分だけ逃げる手を打つと、それも許さんとさえぎりにかかる。あれもダメ、これもダメとやっているうちに、あにはからんや、こちらの大石は目がなくなり攻め合いは一手負け、逆にとられて大敗。このようなことは、しょっちゅうである。どうも負けるのが得意なのである。

相手に喜んでもらうのはいいが、負けるのはどうも悔しい。それではと、考えるほうはだめだからと、せめて「自分の指に碁をおぼえさせよう」とばかりに、プロの打ち碁をやみくもに並べてみる。ただ番号を追って置いているだけではやはりだめか。考えるのが嫌いなのが致命的なのである。負けてもけろりとしているところがいけないのかなと自分でも反省している。本意ではないが、負けてしまうのであ

る。その結果、相手は喜んでいる。まあいいさと思う。

相手には喜んでもらっているではないか。それに負けるといっても五分の星は残せているのだ。信玄公も言っているではないか、「引き分けならば勝ちとみなす」と。

2月の囲碁大会

第２０回　八碁連タイトル囲碁大会

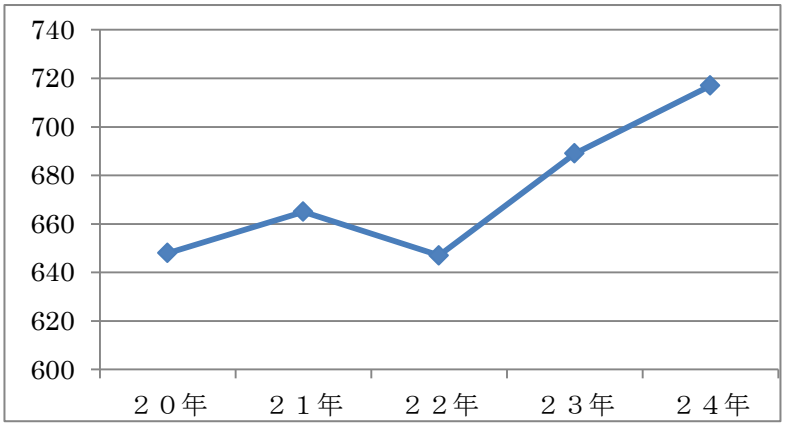
日　時　　平成２５年２月１０日（日）　受付　午前９時～９時３０分
場　所　　東浅川保健福祉センター　４階（東浅川５５１－１　　電話　６６７－１３３１）
主　催　　八王子囲碁連盟（八碁連）
後　援　　八王子市、日本棋院
参加資格　各地区同好会の平成２４年度前期・後記のタイトル獲得者（もしタイトル獲得者が参加できないときは、王座戦と天狗戦に限って届済みの準優勝者が代わりに参加できます）
参加費　　７００円
競技方法　八碁連方式

◎ 平成２４年度後期タイトル獲得者

	名人	王座		天狗	
	優勝	優勝	準優勝	優勝	準優勝
浅川	中村益大２段	神宮寺敏郎７段	横内廣降４段	下重利雄６段	梶原和夫４段
恩方	吉沢　実７段	苦米地憲昭５段	野沢市郎４段	佐藤裕久６段	小山益久４段
元八	入山慧三６段	庄司則幸４段	粂川次夫５級	長嶋　廣４段	山田清志初段
中野	清水文彦６段	野口裕司１級	矢野亮一４段	浜中武夫２段	磯部信広６段
大和田	八木義光４段	山﨑　満３段	根本　清初段	田口　勇２段	山﨑　満３段
石川	田村　強４段	石川幌二４段	水野義嗣５段	松本健彦６段	市村光彦２段
台町	塩津　浩６段	渋谷昭男４段	吉田信夫６段	江口靖碩７段	高本　衛７段
由木	菊地武男初段	桑田明典２級	鳥井義一１級	小林安雄３級	長島健治１級
北野	石坂慶通６段	佐々木胖充４段	青木耕榮４段	伊藤文一４段	石神芳雄７段
長房	小田辰郎５段	小島英基７段	塚原和利７段	安西　実５段	名取　進４段
川口	山本数英６段	藤野誠二４段	渡辺浩良５級	渡辺恵介２段	矢島一雄４段

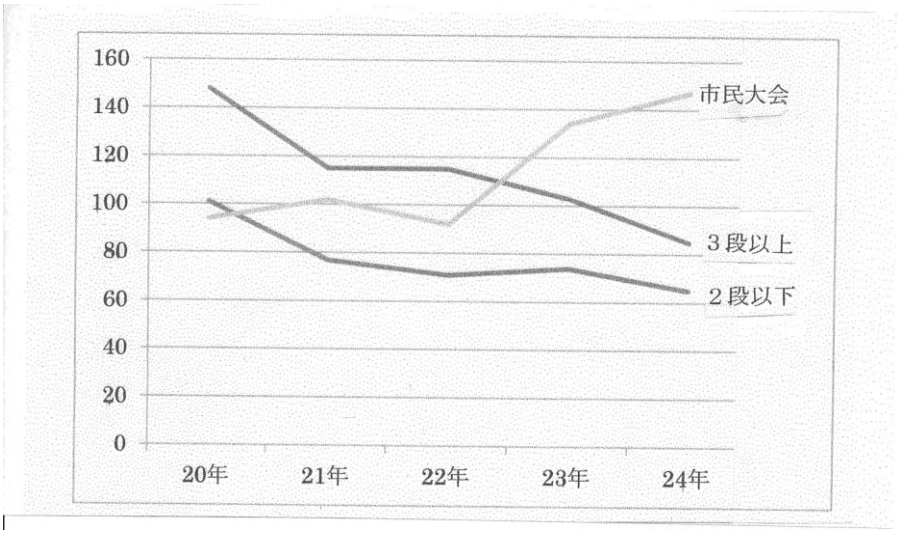
活きいき囲碁大会参加者数の推移

年度	淺川	恩方	元八	中野	大和田	石川	台町	由木	北野	長房	川口	合計
20	66	75	56	49	69	49	73	47	63	53	48	648
21	65	74	63	57	61	58	73	40	65	50	59	665
22	68	83	74	47	53	42	52	45	42	75	66	647
23	60	79	72	48	64	49	62	54	74	69	58	689
24	80	74	68	52	68	58	58	64	74	67	54	717



規定改定によって大会参加者は更に増加することが予想されます。

八碁連大会、市民文化祭囲碁大会の参加者の推移



投稿　桜島と殺し屋参上

北野囲碁同好会　　刀根正樹

（二）

私の囲碁仲間には殺し屋が多いが、梅崎春生に肩を並べるような強烈な殺しやが、さよう北野にはたしかに１人はいる。

人呼んで「三コウさん」。生涯郵便局畑を歩き、マージャンは七段格という。囲碁は若い頃から学び、板橋の碁会所でプロの指導を受けた。碁老連には２段で入会。その後あれよあれよという間に６段に昇段した。「北野では、おれが一番」と私に胸を張る。情け無用の非常な殺人剣で、屍山血河を営々として築き続ける。８０才を過ぎ、そろそろ隠退するどころか、ますます意気けんこう。殺しに精を出し続ける。

「三コウ」とは、本能寺で本因坊算砂と利玄が、信長の御前試合をした時に生じた「三箇所のコウ」で、引き分けとされた。その直後、信長が光秀に殺されたので、囲碁の道では気味悪がられている。

しかし、三コウ氏は、明るい性格で、下町育ちの江戸っ子。一心太助のようなきっぷのよさである。棋風は彼の人柄になじまない酷さであるが、歴史に登場する新撰組の近藤勇や宮本武蔵にも通じる日本民族の体質ではあろうか。

さて私は、４０才の夏に、初めて桜島をまじかに見た。カツオ船に乗り、赤道付近の太平洋を、２ヶ月ほど航海し、母港の鹿児島に帰って来たのである。

錦江湾に入ると、目の前に雄大な桜島が迫って来た。それは落日に染められ、赤い山肌と青い縁どりが浮き上がって、天上の美しさであった。戦国の時代から幕末へと薩摩の人々は、この桜島からエネルギーをもらい、時代の荒波のなかで活躍した。

梅崎春生も、桜島を題材にした作品で世に出た。その後「ボロ家の春秋」で直木賞を、「砂時計」で新潮社文学賞をもらい、「日の果て」は映画化された。晩年ノイローゼとなり、５０才で吐血して死亡したが、まさに剣鬼の平手造酒を思わせる死にざまである。彼の殺し碁のごとく、文壇の中を縦横無尽に暴れまくった。

私は、桜島をいつまでも眺めていた。ふと山が笑ったような気がした。

『梅崎春生も吉良兵曹長も、わしは好かん。ただの殺し屋じゃ。司馬遼太郎の西郷ドンと大久保利通サの方がずっとよかね』

私はその後、熊本に行き、阿蘇の麓を抜け、別府温泉で航海のアカを落とした。梅崎春生のことは、すっかり忘れていた。それから平凡なサラリーマン人生を、７８才の夏まで続けた。

『わが囲碁の　　はるけき航路　　しのぶれば
　　煙なつかし　桜島山』

高齢化時代に生きる

浅川囲碁同好会　　池田　悟

高齢化時代に入り新たな問題点や対応策が必要となろう。国の基準では満七十五才からと言われている。私が自分勝手に決めているのは男子女子共自分の年齢に五才位をプラスして後の五年も従来通り健康で他人様の迷惑にならず通常の社会生活が可能であるのを健康体としている。さらに後の五年はある程度身内からの心配りを貰いながら無難で過ごす事を願っている。徐々に衰えを認めながら佳き人生であったと死を迎えるのが最良と思っている。

長生きの秘訣についてはいろいろの立場の方々が新聞雑誌専門書テレビ等で報道されているので、この中から自分に適したのを選ぶようにしている。この事はみんな考えている事で四～五名が集まると話題になる。結局の所細事に拘らず快活になるのがよいと思う。

長生きしたいのは諸々の歓びと多様性を占めているからで先ず二千二十年に開催されるであろう東京オリンピックの観戦と期待、新幹線が函館～札幌まで延長されるニュース、函館での墓参さらに北まで旅を伸ばしそれぞれの土地で名物の一品を味わいたい、又第二の郷里岩手県遠野市での墓参等を兼ねて是非実行したい。

又、大好きな囲碁が続けられるし、その情報が楽しめる。最近の例では四天王の山下名人と羽根挑戦者の第三十七期名人戦、両雄の息詰まる進行に心酔しました。私の小さい夢と願いかもしれませんが庶民の夢はこの辺にあるのでは？　何れにしても卒寿まで健康でなければとよろける下半身を可愛がっております。

生活のなかであふいと思うのは人類は何故真の幸福を創り出せないのか古代から現在まで世界のどこかで争いごとが絶えない同じ歴史が流れてますが世界の指導者よ、一国主義に拘らず地球の共有化をめざす事で最善を盡してくれる事を期待しその実現を願っております。

◎第１０回八碁連理事会報告

日時　　平成２４年１２月２２日（土）９：００～１２：００

出席者　理事６名

議案　　１．平成２５年度事業計画案検討

２．１月２７日（日）八碁連棋聖大賞囲碁大会について

３．活きいき大会の「広報はちおうじ」ＰＲについて

４．活性化実行委員会報告　規約改正他

５．その他

◎理事、活性化委員合同会議報告

日時　　平成２５年1月１２日（土）　９：００～１２：００

出席者　理事　三上、信江、松本、安西、井出

　　活性化委員　磯部、望月、廣島、三浦、端山、南

議案　　１．規約・規定の整備について

　　２．研修部のありかたについて

　　３．活きいき囲碁大会等について

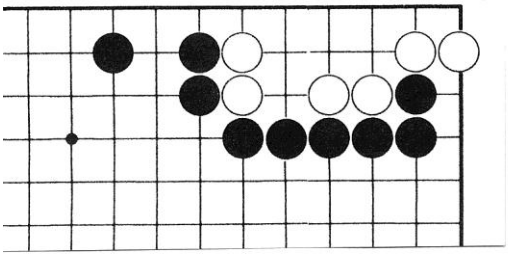
　　４．広報活動について

　　５．青少年の囲碁愛好者の育成について

　　６．日本棋院支部加入について

詰碁

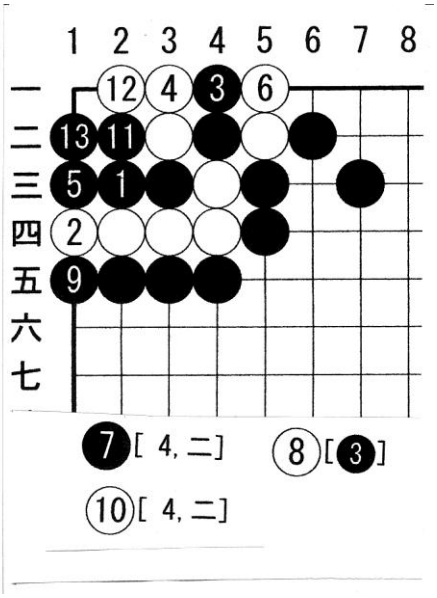
黒先白死（玄玄碁経）



玄玄碁経

囲碁についての、中国の古典的な棋書。南宋時代に著わされ、元代に再編された。

前回解答



片倉城跡公園　本丸址（片倉町）

片倉城は室町時代に大江広元を祖先とする長井氏によって築かれたといわれていますが、歴史的には不明な点が多いようです。城跡を整備して、昭和４７年に公園として開園されました。

正面入り口付近は「彫刻広場」と名付けられたくさんの作品が並べられています。また、三月下旬「かたくり」の花が見られることでも有名です。ＪＲ横浜線「片倉駅」から歩いて５分の所にあります。

編集後記　　来年度の役員を決めるのに苦労しているところが多いようです。これだけの組織を支えていくのには、沢山の人の協力が欠かせません。ご協力をおねがいします。